

横浜市立希望ヶ丘小学校全体計画

(1) 本校の教育の特色

本校は開校以来、様々なことに取り組んできている。中でもとりわけ大事にしていきたいのは、教育課程の中で児童理解・児童指導を考えていくことである。教育活動全般の中で、児童理解・児童指導を大切にしていくということを基本的な考え方とする。

ア 教育課程と児童理解

・ 日常の授業の中で、児童理解・児童指導を充実させていくためには、次のような子どもの姿を目指したい。

- ・ 子ども一人ひとりが学校、学年、学級の中で自分の輝ける場所があること。
- ・ 自己有用感がもてること。 ・ 肯定的に自分を捉えられること。

このような子どもを育成していくためには、授業の中で次のような体験をさせていくことが重要であると考える。

- ・ 先生や友達の言っていることが分かった。
- ・ 楽しかった、おもしろかった。
- ・ もっとやりたい。もっと考えてみたい。
- ・ 自分がいい意見を言うことができた。
- ・ 認め合える仲間がいる。
- ・ みんなで知恵を出し合ったら、いい考えにまとまった。
- ・ 相手の気持ちを考えたら、うまくできた。 など

そのためには、教師の授業展開の工夫が必要である。「問題解決学習」を基盤に、「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示されている子どもの姿『自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人』を目指し、日常の取組の充実を図っていききたい。「新学習指導要領の着実な実施」と「持続可能な教育活動の展開」の2つの視点で教育活動を実践していく。また、児童指導に関しては、幼稚園・保育園、中学校、高等学校、地域・保護者との連携が重要である。中学校とはできるだけ系統的な指導を、地域・保護者に対しては学校の日常を意図的・計画的に公開することで連携を図っていききたい。

さらに、学校における様々なきまりや約束について、全学年で統一する。教師が替わっても学校のきまりやルールは同じであることをしっかり身に付けさせていく。

イ 組織力の向上

組織として力をつけていくために、次のような取組を行っていく。

- ・ 高学年における教科分担制 ・ 学年内あるいは低・中・高学年ブロック内での交換授業
- ・ 習熟度別指導の充実（少人数指導、グループ指導、一斉指導）

小学校での学級担任制のよさを生かしつつ、子ども一人ひとりのニーズに対応した教育を組織として実現していききたい。そのためには、教職員の意識も「自分の学級の子ども」から「自分の学校の子ども」へと転換を図っていく。そのため、学年及びブロックの組織強化、会議の持ち方の工夫などを具体的に考えていく。

(2) 学校教育目標の設定

ア 子どもの実態

この地で生まれたという子が多く、比較的転出入は多くない。各学年の児童数は90名前後であるため、高学年になると学年全ての子が互いに名前がわかるという関係になる。

また、素直で優しい子が多く、言われたことはしっかりできる。その反面、自分に自信がなく、発表など人前で自分の考えを述べることに自信のもてない子どもが多い。地域行事への参加は、家庭によって大きな差がある。

イ 地域の実態・願い

本校は、創立63年を迎える伝統のある学校である。地域、保護者には本校の卒業生も多く学校に対する愛着も強い。地域の方は学校の教育活動に協力的で、学校の子どもは地域で守るという意識がある。地域の方たちは、本校の子ども一人ひとりを大切な存在ととらえ、どの子も伸びていって欲しいと考えている。将来この地域を背負っていく子どもとして、特に生活面では「礼儀」「挨拶」などの基本的なマナーができる子どもを望んでいる。また、自然とのふれあい、人とのふれあい等、様々な体験をすることを望んでいる。

ウ 保護者の願い

保護者は、本校の子どもに次のような願いをもっている。

- ・学習に進んで取り組んでほしい。
- ・友だちと仲よく過ごしてほしい。
- ・様々な体験を積んでほしい。

エ 教職員の願い

教職員は、本校の子どもに次のような願いをもっている。

- ・キーワードは「つなぐ」である。児童と教材、児童と児童、児童の過去・現在・未来をつなぐのが教師の役目である。そして、見通しをもった指導をすることで、子どもたちの成長が見えてくる。

『自らの成長を自覚し、適切に行動できる子』

- ・ 自他理解力、問題発見・解決力、コミュニケーション力をつけてほしい。
- ・ 自分から挨拶ができる子、自分の考えを発表できる子、友だちに優しくできる子になってほしい。

オ 南希望が丘中学校ブロック教育目標

- 主体的に課題を見出し、解決する力を高めます（知）
- 人を思い合い、自然を大切に作る心を育てます（徳）
- 様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛えます（体・開）
- 社会の一員として広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付けます（公・開）

以上のようなことを踏まえ、さらに「カリキュラム・マネジメント」の「知」「徳」「体」「公」「開」の視点で見直し、次のような学校教育目標を設定した。

「夢・希望・未来 笑顔いっぱい希望が丘」～いつも笑顔で元気にあいさつ 心やさしい希望の子～

- ・ 問題意識をもち、自分で判断し、解決する子を育てます。【知】
- ・ 自分の良さを発揮し、思いやりのある子を育てます。【徳】
- ・ 心と体を鍛え、生命と体を大切に作る子を育てます。【体】
- ・ まちの人や自然とのかかわりを大切にし、共に生きる子を育てます。【公】
- ・ 社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。【開】

本校の学校教育目標は、キャッチフレーズとして「夢・希望・未来 笑顔いっぱい希望が丘」を設け、さらにその取組目標として5つの目標を設けてある。ここでいう「笑顔いっぱい」とは、本校が創立40周年のときから学校教育目標のキャッチフレーズとして設定している言葉である。「花いっぱい」「歌いっぱい」「あいさついっぱい」など、笑顔の元となるたくさんの「いっぱい」が含まれている。

「希望ヶ丘」ではなく「希望が丘」と表記する理由は、“まち”との関わりを大切に考え、まちいっばいに笑顔が広がるとよいと考えているためである。

(3) 学校教育目標を実現するための具体的な目標

学校教育目標の実現に向けて、さらに具体的な取組を「具体的な目標」として次のように設定した。

「知」	「分かる授業」「楽しい授業」「集中できる授業」を展開するために、学びの集団や空間の多様化を進め、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てます。
「徳」	正しく善悪を判断し、社会のルールを守る規範意識や礼儀を大切にすることを育て、自分と同じように相手を尊重する心や態度を育てます。
「体」	心と体の健康を守ることに興味をもち、望ましい生活習慣を身に付け、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てます。
「公」	安全ボランティアとの交流、保護者ボランティアの活動などを充実させ、地域に愛着が持てる子を育てます。
「開」	安全教育・情報教育・食教育などを重点に、様々な現代的課題に対応できる力を育てます。

(4) 学年ごとの目標の設定

一 年	知	楽しい授業を進め、分からないことや困難なことにもあきらめずに取り組む姿勢を育てます。
	徳	約束を守る意識やあいさつを大切に、友だちと仲よく互いに助け合う心や態度を育てます。
	体	健康や安全に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとする姿勢を育てます。
	公	身近なまちや自然とふれあい、地域の中で元気に生きる子を育てます。
	開	「安全教育」を重点に、学校生活や放課後の活動を安全に過ごす力を育てます。
二 年	知	「楽しい授業」を進め、分からないことや困難なことにもあきらめずに進んで取り組む姿勢を育てます。
	徳	約束を守る意識やあいさつを大切に、友だちと仲よく互いに助け合う心や態度を育てます。
	体	健康や安全に関心をもち、規則正しい生活をしようとする姿勢を育てます。
	公	身近なまちや人とのふれあいを通して、地域に愛着がもてる子を育てます。
	開	「まち探検」などを通して、まちと積極的に関わろうとする子を育てます。
三 年	知	「分かる授業」「楽しい授業」を進め、問題解決に粘り強く取り組む力を育てます。
	徳	やくそくを守る意識や礼儀を大切にすることを育て、互いを思いやり助け合う心や態度を育てます。
	体	健康や安全な生活に関心をもち、規則正しい生活を送ることや自らの健やかな体づくりに取り組む姿勢を育てます。
	公	身近なまち、人、自然とふれあい、地域の中ではつらつと生きる子を育てます。
	開	「まち調べ」などを通して、地域へ視野を広げようとする子を育てます。
四 年	知	「分かる授業」「楽しい授業」を進め、課題をもって自ら解決しようとする意欲的に取り組む力を育てます。
	徳	善悪を正しく判断し、社会のルールを守る意識や礼儀を大切にすることを育て、友人や親・目上の人を敬う心や態度を育てます。
	体	心と体の健康を守ることに興味をもち、生活習慣や心身の成長の正しい知識を身に付け、自ら進んで体づくりに取り組む姿勢を育てます。
	公	地域との交流の中で、自らできること、役に立つことを考え実践できる子を育てます。
	開	「安全教育」「環境教育」などを重点に、様々な課題を身近な事柄から実践したり対応したりする力を育てます。
五 年	知	「わかる授業」「楽しい授業」「集中できる授業」を展開するために、教師の専門性を生かし学びの集団や空間の多様化を進め、課題解決に向けて一人一人が意欲的に取り組む姿勢を育てます。
	徳	善悪を正しく判断し、社会のルールを守る規範意識や礼儀を大切に、相手を尊重する心や態度を育てます。
	体	心と体の健康を守ることに興味をもち、望ましい生活習慣を身に付け、自ら進んで体づくりに取り組む姿勢を育てます。
	公	地域との交流を深め、より地域に愛着をもてる気持ちを育てます。
	開	「環境問題」や「異文化交流」を通し、国際社会に適応できる力を育てます。

六 年 生	知	「わかる授業」「楽しい授業」「集中できる授業」を展開するために、教師の専門性を生かし学びの集団や空間の多様化を進め、課題解決に向けて一人一人が主体的に粘り強く取り組む姿勢を育てます。
	徳	善悪を正しく判断し、社会のルールを守る規範意識や礼儀を大切にすけじめある態度を育て、自分と同じように、相手を尊重する心や態度を育てます。
	体	心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身に付け、自ら進んで健康を保ち、体づくりに取り組む姿勢を育てます。
	公	地域との交流を深め、より地域に主体的に関わり、愛着をもてる気持ちを育てます。
	開	「社会問題」や「異文化交流」を通し、広い視野をもって、国際社会に適応できる力を育てます。

子どもの成長の過程を、幼児期から連続的に捉え、幼稚園や保育園での教育あるいは保育の方針等を参考にしながら、「学校教育目標」及び「具体的な目標」を受けて、1年生から学年ごとに「知」「徳」「体」「公」「開」を視点にして学年目標を設定した。6年生については、中学校1年生の学年目標を意識し設定した。

また、学年目標の設定に当たり、子どもの成長は学年で切れているのではなく連続していると考え、図を重ねる形で描いている。したがって、2年生であっても最初は1年生の目標で活動している子どもがいることも考えられる。より一人ひとりのニーズに応じた目標設定を行い、子どもの実態のとらえと指導を幅広く行っていきたい。

さらに、低・中・高学年のブロック体制も重要であると考えている。指導内容の連続性、系統性を考え、学年内の話し合いにとどまらず互いの学年経営を共通理解していくことが、学校として組織力を向上させることになると考える。

(5) 各教科等教育活動計画の指導の重点

資質・能力の三つの柱をバランスよく育成していくために、本校の実態、保護者・地域の願い等、横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領に基づいて具現化していく。

なお、その中でも★印を本校の重点とするとともに、低・中・高学年別にもそれぞれの課題の指導の重点を設定した。

また、各教科等の目標については、「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に準じて実践をする。また、特に「豊かな心の育成」を基盤として指導を続けていく。

